

鍵盤ハーモニカ活用報告書

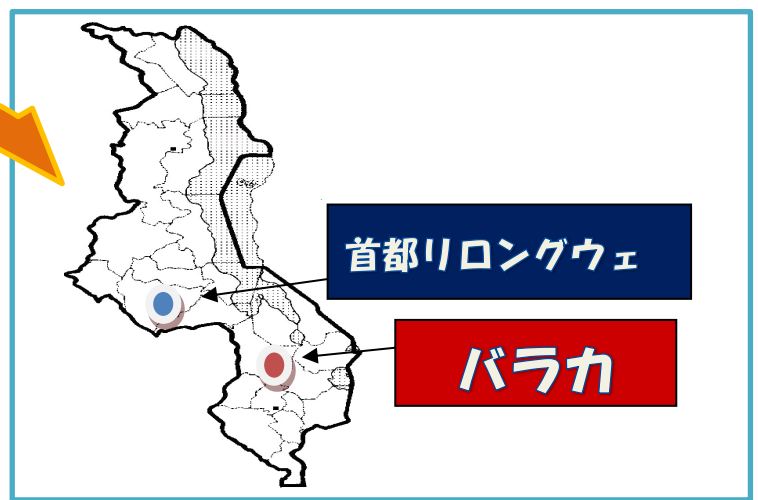
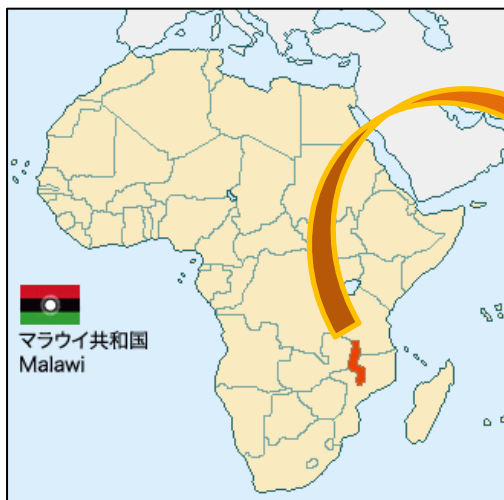
報告日：2016年2月29日（月）

報告者：長根尾 和子

（26－2/青少年活動）

1. 任地・配属先の紹介

任地であるバラカ県バラカ市は、首都リロングウェから南東方向に210km、車で約3時間半のところに位置する中規模都市です。温帯夏雨気候であり、年中通して気温が高い地域です。11～2月は特に暑く、この時期は40度前後になる日が続きます。国内でも暑いことで有名な県として知られています。



私は、「バラカ教師研修センター」に所属しています。マラウイの教育セクターは、教育科学技術省、地域、県、ゾーンの流れに細分化されています。その末端のゾーン内に私が所属する、教師研修センター（Teacher Development Center（以下TDCと記す））は設置されています。

TDCが各地域で開設された背景には、1994年に導入された初等教育の無償化政策が大きく関係しています。政策導入後、児童・生徒の就学数が飛躍的に拡大しました。そのため大量の教員が採用されましたが、その中には中高等教育を修了しただけの無資格教員もたくさんいました。そこで、教育の質の確保、向上を目的にそれを担う場として開設されたのがTDCです。

バラカボマTDCには、現在、私を含めて4人が在籍しています。右の写真は、同僚の3人とTDCの前で撮影したものです。右から私、サンデ（初等教育アドバイザー）、ベンデラ（データコレクター）、ムロンバ（初等教育アドバイザー補佐）です。バラカ市内8校の小学校を管轄しています。



同僚3人と私 TDCの前にて

私のカウンターパートである初等教育アドバイザーは、次の4つの仕事を主に担当しています。

1) 校長に対する学校運営や学校改善の指導・助言

2) 校長や教員に対する授業改善の指導・助言、現職教員研修の企画・実施

3) コミュニティに対する教育活動への参加の促進

4) 県教育事務所に対する各種報告、情報伝達

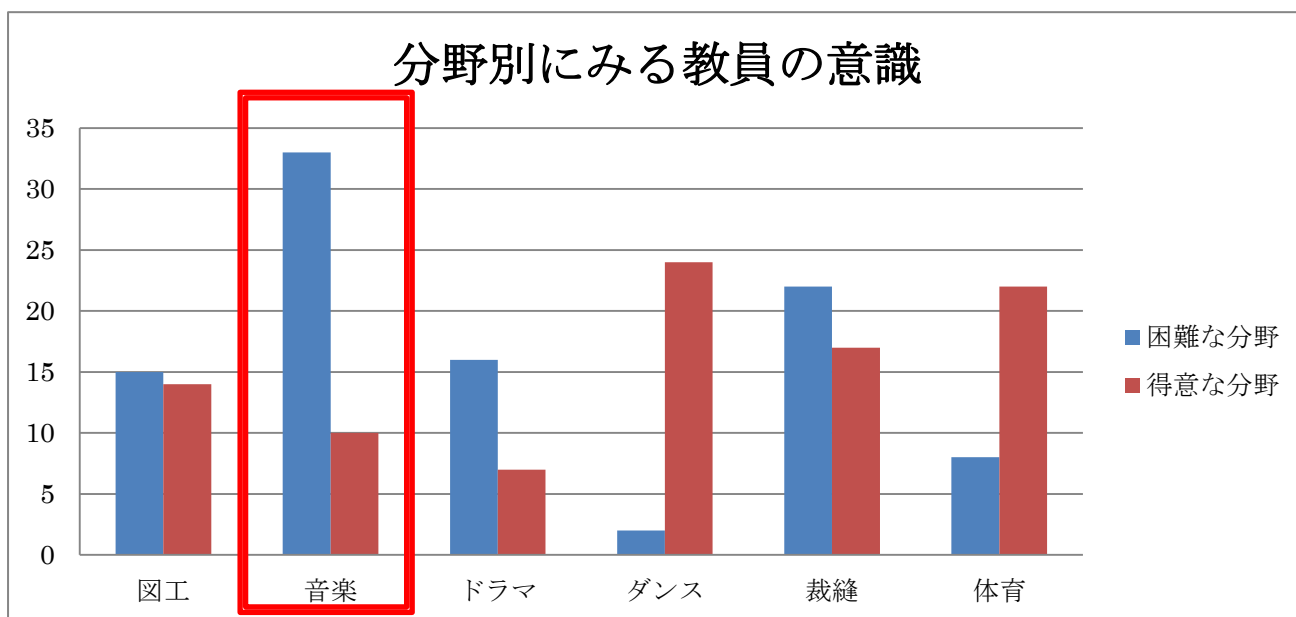
上記4領域のうち、私は2の領域の一部（Expressive Arts（表現芸術科目）¹の質向上）を担当しています。表現芸術科目とは、あまり馴染みのない教科だと思われがちですが、日本の技能教科がそれに該当します。

2. 任地での音楽指導の現状

任地バカラへ赴任直後の2015年3月～5月に表現芸術科目（以下エクスプレッシブアーツと記す）の現状を把握するため、管轄校8校を巡回し、エクスプレッシブアーツの授業を中心に授業参観、ならびに該当教科担当教員66名を対象にアンケート調査を実施しました。その結果エクスプレッシブアーツに関して以下のようなことがわかりました。

- 「教科のすり替え」や、「単元のスキップ」が頻繁に起こっており、週に5回指導するべきところ、実質3回しか実施されていない。
- 例え授業が行われていたとしても、その多くは「説明のみの授業」であり、実技はほとんど実施されていない状態である。
- その原因として、指導に対する教員の「スキル・知識不足」、「教材不足」、そして100人越えのクラスによる「クラスマネジメント力不足」など、以上3点が挙げられる。

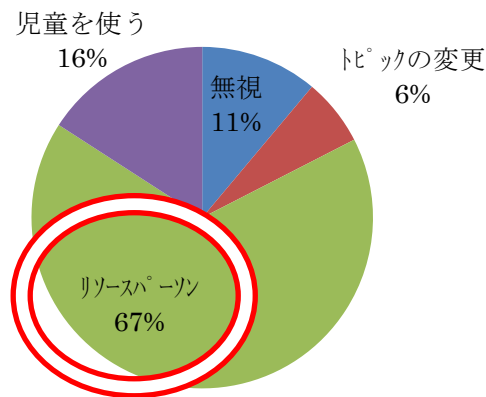
以下に示す3つのグラフはエクスプレッシブアーツの分野別にみるアンケート調査結果です。



分野別にみると、最も多くの教員が「音楽」指導に困難を抱えていることがわかります。

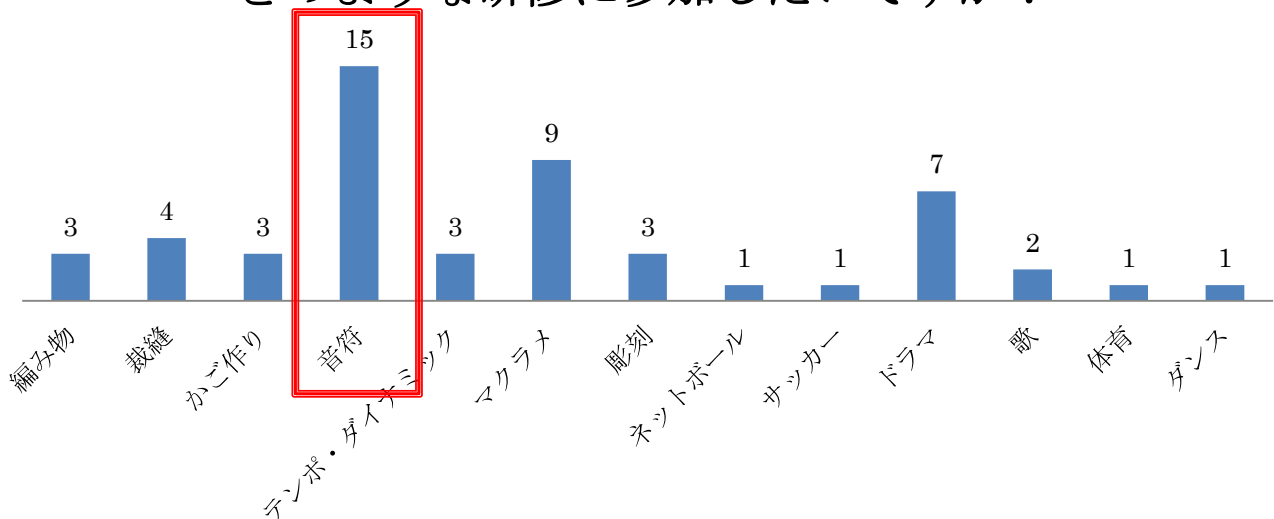
¹音楽・体育・ダンス・図工・裁縫・ドラマの要素を含む1つの確立した教科のことである。

指導困難な分野に対してどのように解決していますか？



指導困難な分野に対して、約7割の教員は「リソースパーソン」といって、その分野に詳しい人に助けを求めていることがわかります。リソースパーソンの内訳としては、「校内の教員」、「同じクラスを担当するパートナー」、あるいは、「村人」という意見が聞かれました。残りの2割の教員は、自分のクラスのトピックに精通している児童・生徒をリソースパーソンとして活用していることがわかりました。

どのような研修に参加したいですか？



圧倒的に「音楽」に対する要望が高いことがわかります。アンケート調査中にも教員から「音符の知識に乏しく指導ができない。」という声が多く聞かれました。

以上の調査結果より、「音楽」の指導力向上に対するニーズが非常に高いことがわかりました。しかし、バラカTDCの現状として、音楽の普及を図りたくとも任地には指導を補助する教材は一つもなく、そのため、現地の先生たちにとっても同様に指導困難な状況でした。

3. 鍵盤ハーモニカ贈呈

1月26日(火)に各校から代表として来てもらったリソースパーソンとなっていく先生たちに鍵盤ハーモニカを1台ずつ贈呈しました。

寄贈していただいた鍵盤ハーモニカ数とその内訳は以下の通りです。

- **寄贈鍵盤ハーモニカ数 14台**

- 1月12日(火) 1校に寄贈
- 1月26日(火) 6校に寄贈
- 2月5日(金) 1校に寄贈

※寄贈日が違うのは、授業で使いたいとの要望があった、贈呈式の日欠席したなどのため。

残り6台の鍵盤ハーモニカはTDCで管理し、希望があれば巡回時にJOCVが持参します。

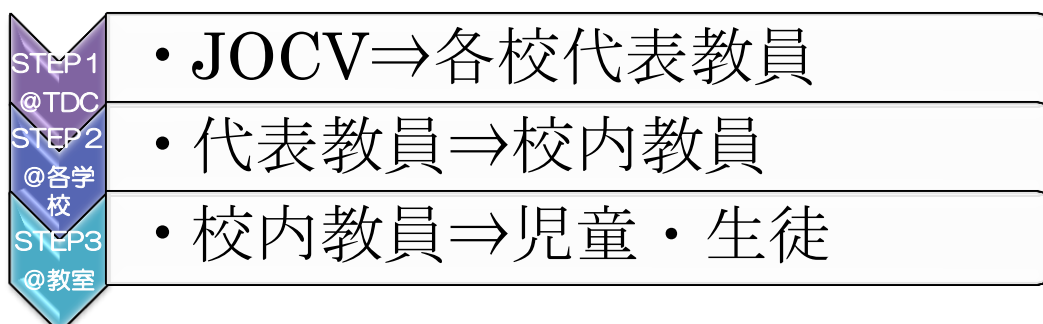


4. 鍵盤ハーモニカ導入の流れ

鍵盤ハーモニカ導入に際しては、以下の図に示すように3つのステップを踏むことを留意しています。その理由は、児童・生徒に楽器を通して音楽を身近に感じる機会を継続して与えるためには、まずはその主体となって授業を実践していく教員が楽器に親しみを覚え、そこから指導力を向上させ、指導に対する自信を高めることが重要であると考えからです。以下、写真を交えてその様子を報告させていただきます。その他、写真では伝わらない鍵盤ハーモニカを使って曲を弾いている様子をyoutubeでアップしましたのでお時間がありましたら是非ご覧ください。以下のリンクでご覧になれます。

リンク：<https://youtu.be/isGba1WYi70>

題名： マラウイの小学校にピアノが届いた！



■ STEP1@TDC JOCV⇒各校代表教員（Day1）

2日間 TDC に来て学んでももらいました。この2日間の目標と習得したスキルは以下の通りです。

項目	Day1：1月26日（火）	Day2：2月5日（金）
目標 （ハイライトは中心目標）	✧ 音符の復習をする ✧ 楽譜が読めるようになる ✧ 国歌が弾けるようになる	✧ 強弱の復習をする ✧ 強弱をつけて国歌が弾けるようになる
習得した知識・スキル	● 音符に従って音が出せる ● 楽譜に従って音階を特定することが出来る ● 国歌を弾くことが出来る	● 強弱をつけて国歌を弾くことが出来る

*STEP1: Day1 鍵盤ハーモニカ使い方講習の様子

1月26日（火）



ピアノカの使い方を学んでいるところ



始めてみる楽譜



楽譜にドレミの音階を記入中



音階の記入に悪戦苦闘中！



いざ！国歌の練習スタート！



必死！できなかったら次回までの宿題！？

***STEP1: Day2 鍵盤ハーモニカ使い方講習の様子**

2月5日（金）



前回の復習中



自力で楽譜が読めるように！

■ STEP2@各学校 代表教員⇒校内教員

代表教員から校内の教員に使い方の講習会を実施した学校は、現時点（2月25日（木）付）では、管轄校8校中リウォンデ小学校、ムワンジェ小学校、セントオーガスティン小学校の3校です。3月は、学期末試験期間に入るため、残り5校は来学期に実施する予定です。



初めて触れる鍵盤ハーモニカ



校内の先生に指導中



熱心に指導してくれています



子どもたちも興味津々です！



吹き口は水で洗って清潔に

Date	Name	Class teaching	Period of borrowing (Not more than 2 days)	Remarks & signature
09/02/16	O-BANDA	4	2	
15/02/16	MEKEWA	4	2	
	Chingamwa	6	2	
	Liputo	4	2	
	Purindwe	3	2	

家で練習したい人は使用書に氏名を記入してからです！

■ STEP3@教室 校内教員⇒児童・生徒（グワングワ小学校）

教員が実際に教室で使用し、児童・生徒に指導した学校は、現時点（2月25日（木）付）では、管轄校8校中グワングワ小学校、セントオーガスティン小学校の2校です。来学期以降、積極的に展開していく予定です。生徒の手に届くまでには少々時間を要しますが、継続した指導が子どもたちに届くよう、粘り強く支援していきます。



音階の説明をしているところ



建販ハーモニカを使って指導をしているところ



鍵盤ハーモニカを使った授業風景



弾けるようになるよう必死な女子生徒たち



教え合い練習をする男子生徒たち



授業後も外で自主的に練習する生徒たち

5. 鍵盤ハーモニカがもたらしている効果

マラウイの小学校では、シラバスに基づき6年生で「音楽の強弱」、7年生で「音符指導」、8年生で「音楽のテンポ」と既習内容の復習を指導するよう定められています。しかし、「音楽指導」はマラウイの教員にとって苦手意識が強い分野です。鍵盤ハーモニカが寄贈される以前の音楽指導は、本報告書2. プロジェクト申請の背景でも既述したように、教員の知識不足が主な原因となり単元がスキップされるケースが多い状況でした。あるいは、例え授業が実施されていたとしても、指導書に書かれていることを正確に理解し、記号を見て正しく音を表現できる教員は一人もいませんでした。

しかし、鍵盤ハーモニカ寄贈後は、1) 教員の意識、2) 授業の展開スタイルの2点に関して顕著な変化が見られています。

1) 教員の意識の変化については、私自身が巡回をする中で、教員が音楽に親近感を抱いていることを強く感じます。多くの教員は鍵盤ハーモニカを使って国歌が弾けるように一生懸命練習しています。そして、国歌が自分で弾けるようになってとても喜んでます。曲が弾けるようになった頃を見計らい、自分で弾けるようになった曲を基に帰納的に音符のルールについて触れると、スッと理解できていることが伝わってきます。このように音楽に親しむことから、無理なく音楽指導の基礎につなげることが可能となったおかげで、教員の音楽指導に対する苦手意識を少しずつ軽減し、指導に対する自信を高めるきっかけを与えることができています。

2) 授業の展開スタイルの変化については、今までは口頭説明のみだった音符指導が、補助教材としての鍵盤ハーモニカのおかげで、まずは、教員が音を出しながら生徒にモデルを示し、その後生徒が自分たちでやってみる授業の展開の仕方へと進化しています。

心で感じた授業、体験を通して習得した知識・スキルは、時間がたっても生徒たちの心と頭に残る確かな学びにつながっていると確信しています。

6. 今後の展望

4月から始まる3学期に、巡回校の残り5校でもリソースパーソンとして協力してくれている教員とともに、鍵盤ハーモニカの使い方を校内の先生たちに紹介する予定です。その後、積極的に鍵盤ハーモニカを取り入れた授業展開を図っていきたいと思っています。

バラカのボマで展開している鍵盤ハーモニカの導入方法の課題は、児童・生徒が鍵盤ハーモニカに触れるまでには少々時間を要してしまうことが挙げられます。しかし、自身の教員経験から授業の実施主体者である教員が使いこなせないものは最終的には、その場限りのものになってしまうという強い思いがあります。そのため、例え時間がかかったとしても、児童・生徒には、継続的に鍵盤ハーモニカを通して音楽の楽しさを感じてもらうため、教員には、音楽の指導力向上と指導に対する自信を高めてもらうため、という考えをしっかりと根底に持ち、確実に少しずつそして粘り強くサポートしていこうと思っています。